

2017年度 センター試験 倫理（本試験） 分析

全体概況

試験時間 60 分

大問数・解答数	大問数：4 題	解答数：37 問
難易度の変化（対昨年）	○ 難化 ○ やや難化	● 変化なし ○ やや易化 ○ 易化
問題の分量（対昨年）	○ 増加	● 変化なし ○ 減少
出題分野の変化	○ あり	● なし
出題形式の変化	○ あり	● なし
新傾向の問題	○ あり	● なし

総評

大問数、解答数、出題分野の構成は昨年までと同じ。出題形式の変化も特になかった。第 3 問では、近代以前の日本の思想家の言葉が現代語訳されずに出題されているところがあり、戸惑う受験生も多かったであろう。昨年同様、細かい知識（美術史的知識を含む）が求められる問題も散見され、難しいと感じる受験生が多かったと思われる。

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	現代社会の諸問題・青年期の心理	28 点	問 2 の小此木敬吾、問 3 の美術史的知識、問 6 のトクヴィルなど、全体的に受験生になじみのない人物の思想などが問われており、難しい。消去法でも解きにくい問題もある。
第 2 問	源流思想	24 点	問 1 のイスラム教における利子禁止、問 2 のアウグスティヌスの教会論、問 5 のプロティノス、問 6 のソクラテス以前の自然哲学者など、細かい知識が問われた。問 7 のマテオ・リッチの一節を用いた出題では、正確な知識の運用力が求められる問題であった。
第 3 問	日本の思想	24 点	問 2 と問 5 は、最澄と荻生徂徠の言葉を現代語に訳さずに出題されていた。問 4・6 の山崎闇斎と契沖、問 7 の中村正直と陸羯南など、第 1 問同様に受験生になじみのない思想家が出題された。
第 4 問	西洋近現代思想	24 点	問 5 でトマス・モア、問 8 で現象学が問われているのがやや難しいが、その他は標準的問題であり、今年のセンター試験・倫理のなかでは、比較的容易な大問といえる。